

国際法と戦争

神戸市外国語大学 准教授 廣見 正行

1. 戦争防止の国際法

(1) 第一次世界大戦以前

・歴史的に、第一次世界大戦までは、国際法上、戦争は禁止されていなかった。

←「無差別戦争観」

(2) 国際連盟規約

・前文「締約国ハ、戦争ニ訴ヘサルノ義務ヲ受諾シ」

・第16条…規約違反の戦争に訴えた国に対する経済制裁

(3) 国際法における「戦争」の意味（定義）

①日常用語としての「戦争」：「武力による国家間の闘争」『広辞苑』

②国際法上の「戦争 (war)」、「法律上の戦争」 = 国際連盟規約の禁止する「戦争」
：戦争意思の表明（開戦宣言や最後通牒という手続）によって成立する状態

③「事実上の戦争」：戦意を表明せず行われる武力行使 = 国際連盟規約の禁止の対象外

(4) 国際連合憲章

・第2条4項…武力行使 (use of force) の禁止 ⇔例外としての自衛権

2. 国際法は法か？

(1) オースティンの国際法批判

・国連憲章で武力行使が禁止されたにもかかわらず、現在も世界で武力紛争が生じている。

⇒オースティン (John Austin) の国際法批判

①現実に数多くの国際法違反が生じている

②国際社会は違反に対して何らの制裁手段も用意していない

∴国際法は「真の法」ではない

(2) オースティンへの反論

①国際法違反のセンセーショナル性→違反が国際法の常態であるとの錯覚

“Violations of law attract attention and the occasional important violation is dramatic... It is [however] probably the case that *almost all nations observe almost all principles of international law and almost all of their obligations almost all the time.*” (Louis Henkin, *How Nations Behave* (1979), p. 47.)

①法が遵守されているか否か（法の実効性）と法が拘束力をもって適用されているか（法の妥当性）との区別

②個々の国家による制裁

（3）国際法の目的

①「平和」という目的、あるいは「平和」の意味（定義）

“On the one hand, it seems indisputable that international law ‘has a general function to fulfil, namely to safeguard international peace, security and justice in relations between States’... Such objectives seem self-evident and have never been seriously challenged ... because they exist at such high level of abstraction... What do ‘peace’, ‘security’, or ‘justice’ really mean? As soon as such words are defined more closely, disagreement emerges.” (Martti Koskenniemi, “What is International Law For?” in Malcolm D. Evans (ed.), *International Law*, 2nd edn. (2006), p. 58.)

②国際法の目的

“The real problem seems always to be less about whether international law should aim for ‘peace’, ‘security’, or ‘human rights’ than about how to resolve interpretative controversies over or conflicts between such notions...” (Martti Koskenniemi, “What is International Law For?” in Malcolm D. Evans (ed.), *International Law*, 2nd edn. (2006), p. 59.)

3. 武力紛争の終結に向けて

（1）第一次世界大戦までの戦争の終結方法

・ 平和条約…敗戦国に対し、戦勝国が望む和平条件を強制するかたちで締結

（例）領土割譲、賠償金（報償金、indemnity）

= 「カルタゴの平和」

（2）ウィルソン大統領の「勝者なき講和」（**peace without victory**、1917年）

（3）国連憲章の下での武力紛争の終結方法

・ 武力行使禁止原則→敗戦国に対し、侵略国が望む和平条件を強制させることはできない

⇔自衛権…自衛権行使国も、自衛を超える武力を行使することはできない

∴休戦協定（国境線までの軍隊の撤退+武力行使の恒久的停止）

（4）武力紛争終結後の課題

・ 領土の帰属、賠償金、戦争犯罪人の処罰…第三者による国際法に基づく解決

⇒武力紛争の終結そのものとは切り離すべき課題